参考１

第４回文化芸術推進計画策定ワーキング　意見の概要（R1.6. 21 開催）

１．視点について

・“推進”計画であるが、視点の順番が「まもる」、「はぐくむ」、「つくりだす」、「つなげる」になっている。４つの視点の並べ順に意図はなくても、「まもる」→「はぐくむ」→「つくりだす」→「つなげる」とイメージをさせてしまう。「まもる」で始まることに違和感がある。
・４つの視点毎に島田のあるべき姿や目指す姿を入れてはどうか。
・視点「まもる」は何を守りたいのかを明確に示す必要がある。
・「つながる」は、「未来」へ向けた視点を含んでいることを示したい。

２．施策の柱について

・施策の柱、施策の項目が多すぎる。広く考えればまとめられるのではないか。
・重複する分野をどの施策に入れるかは重要度で判断し、整理すればよいのではないか。
・「文化芸術の担い手の確保」と「人材の獲得・育成」、人材について２つの柱がある。「文化芸術の担い手の確保」は今ある文化芸術活動を継承する人材について、「人材の獲得・育成」は、市外であっても優れた人材について示しているとのことだが、「人材」をキーワードにまとめてもいいのではないか。
・プロデューサーやコーディネーター、アーティスト等を広い範囲で「人材」と捉え、柱をつくってもいいのではないか。
・「愛着や誇りの形成」が視点「はぐくむ」に結びついている。アイデンティティの形成は、その価値に気付づくことを意味するので、視点「つくりだす」に結び付けるべきではないか。「何をするべきか」を明確にすることで、どの視点に結びつくか決めたほうが良い。
・「地域資源の集積」は「地域資源の保存と継承」の施策の中で表現すれば良いのではないか。
・「誰もが参加・活動できる環境づくり」の中の「誰もが」は福祉との関わりがイメージでき、良い言葉であると思う。
・文化芸術推進計画策定の検討の視点の中央カラーの項目が、そのまま施策の柱にしてもいいのではないか。

３．施策について

・「何もない」という市民意識の現状に対しては、外からの視点などを使って、気付きを与えることが必要。
・市民の文化芸術への関心をつくりだすことは、文化芸術の受益者を増やすことになり、「つなげる」という視点が生かされてくる。

・「交流」の項目に関して、大学のない島田にとって、高校は重要なキーワードになる。このような点を踏まえ、多世代交流と多文化交流に係わる施策を検討した方がよいのではないか。
・また、「交流」というキーワードの背景には、川留めにより東西の人々が交流してきた歴史がある。「市内外の人とのコラボレーション」を意識させる表現にした方が良いのではないか。
・施策の中に「従業員」という言葉があるが、違和感がある。企業の包括的関わりとして言葉を整える必要がある。
・「ささる情報の表現」とあるが、わかりにくいように思う。

４．その他

・視点、施策の柱、施策、背景を矢印で結び付けているために、複雑になってしまっている。矢印をなくし、重複する施策の柱を整理する必要がある。
・「島田らしさ」は便利だが、定義が難しい。他の表現に変えたほうがいいのではないか。
・地域軸といった視点を踏まえ、全体を検討する必要がある。
・骨子案にある「地域資源」のフレーズが施策に反映しきれていない。